「コップの水」

島根県　舜叟寺（しゅんそうじ）　住職　西古孝志（さいここうし）

祖父が亡くなり、七回忌を迎えました。祖父は、長年、山間（やまあい）のお寺の　住職をつとめていました。毎年八月に行われる法要には、私も小さい頃から手伝いに行っていました。

その法要の時に、祖父が必ずお供えするものがありました。それは、祭壇いっぱいになるほどの水を入れた、たくさんのコップです。私は「なぜ、こんなにたくさんコップをお供えするの？」と祖父に尋ねました。すると、祖父は「戦争で、同じ部隊にいて亡くなった仲間に、せめてもの供養の思いで、たくさんのコップに水を入れてお供えしているんだよ」と話してくれたのです。祖父は戦争に行きましたが、怪我をして戦友より早めに帰還していたのです。たくさんのコップをお供えする理由を聞いてからは、私も祖父の思いに寄り添いながら、法要の準備をするよう心がけています。

じっくり考えてみますと、祖父の戦友への供養の思いが、祭壇を埋め尽くすほどの水の入ったコップをお供えするという行動になっています。このような「思いと行動が一つ」になることこそ、「禅」の生き方だと感じます。

「禅」の生活は、決して特別なことではありません。ただ「思いと行動が一つ」になることです。

食事の時は、食事に思いを寄せて、掃除の時は、掃除に思いを寄せて、人と接するときは、その人に思いを寄せて、お供えものをする時も、供養の思いを添えて、行います。何事も「思いと行動が一つ」になることが大切です。思いのない行動や、思いはあっても行動しないのでは、バランスが偏ってしまいます。「思いと行動が一つ」になるとは、中心線が整うことでもあります。バランスが偏ると、中心線もぶれてしまいます。

祖父が行っていた「コップの水」への思いを、自分自身の生活の中で生かしながら過ごしていきたいと思う、七回忌の年です。